

# 阿波市学校施設長寿命化計画



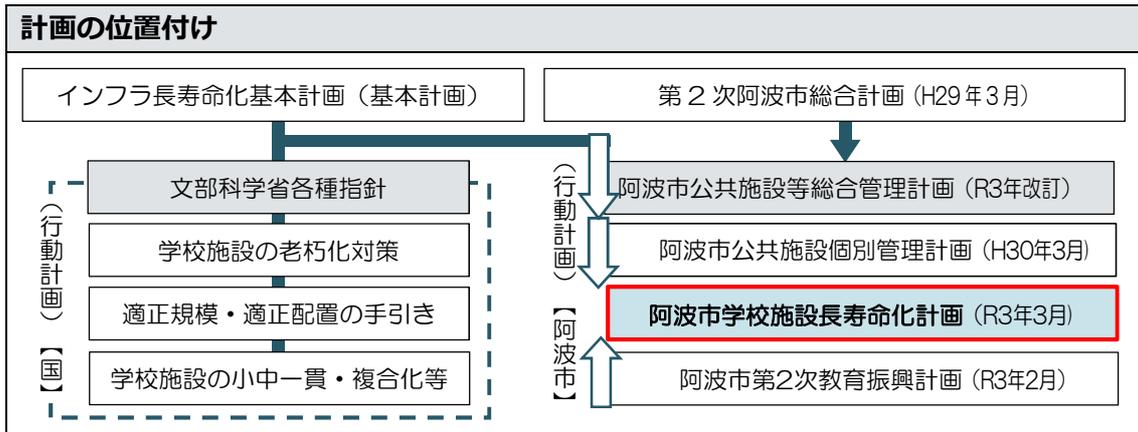
令和 3(2021)年 3月  
阿波市教育委員会

## 目次

第 1 章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的	1
第 2 章 学校施設の目指すべき姿	1
第 3 章 学校施設の実態	2
第 4 章 学校施設整備の基本的な計画の方針	4
第 5 章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	5
第 6 章 長寿命化の実施計画	5
第 7 章 長寿命化計画の継続的運用方針	7

## 第 1 章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的

背景	「阿波市公共施設等総合管理計画2021(令和3)年改訂版」によると、本市が所有する公共施設全体の延床面積(218,937㎡)のうち、学校教育系施設の面積が31.9%を占めており、もっとも高い割合となっています。そのうち40年以上経過した棟は24棟あることから施設の老朽化による安全性の低下や日常的な修繕等に係る費用の増大、大規模改修や建替え時期の集中が予想されます。
目的	建物を良好な状態で長期にわたって使い続ける長寿命化の考えのもと、トータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保する必要があります。学校施設の劣化状況や教育内容・方法への適応状況などを適切に把握し、総合的な観点での整備や管理運営の適正化を行います。
計画期間	2021年度から2060年度までの40年間とし、学校施設の状況等を継続的に把握し、5年ごとに見直しを行います。
対象施設	小学校 10校、中学校 4校 合計 39棟 62,538㎡



## 第 2 章 学校施設の目指すべき姿

<b>学校施設の計画的な整備</b>
学校施設の長寿命化対策に向けて計画的な改修等を行うことで施設の長寿命化を図り、今後は、特別教室へのエアコン設置やトイレの洋式化や自動水栓の整備も行い、快適で安心して利用できる施設整備を推進していきます。
<b>教育環境の充実</b>
学習設備については、引き続きICTを活用した情報教育の環境整備を進めていきます。
<b>子どもたちの安全・安心の確保</b>
施設・設備の安全点検を実施し、老朽化が進む学校施設の改修等を計画的に取り組み、生活安全、交通安全、災害安全を図るため様々な施設整備の充実に取り組みます。

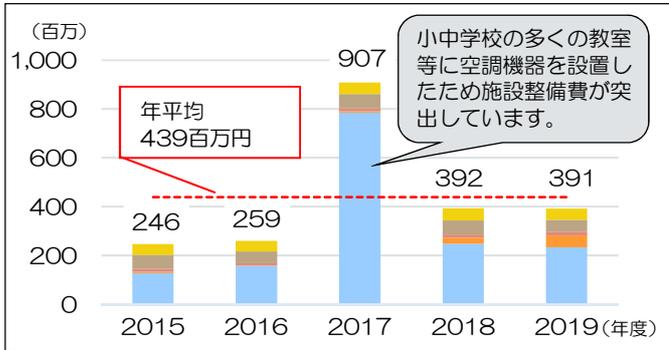
### 第3章 学校施設の実態

#### 児童生徒数の予測

	実数		推計				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
児童数	1,804	1,567	1,397	1,252	1,111	1,000	907
生徒数	1,002	846	753	676	600	541	489
合計	2,806	2,413	2,150	1,928	1,711	1,541	1,396

2020年  
→2045年  
減少率  
**▲42.1%**

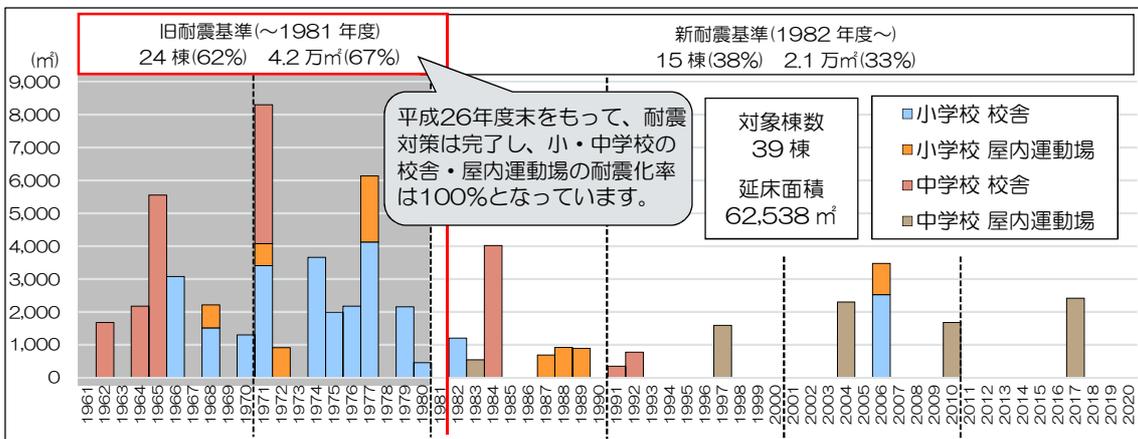
#### 過去の施設関連経費



#### 5年間の各施設関連経費の平均

施設整備費	310百万円
その他整備費	17百万円
修繕費	12百万円
委託料	54百万円
光熱水費	46百万円
合計	439百万円

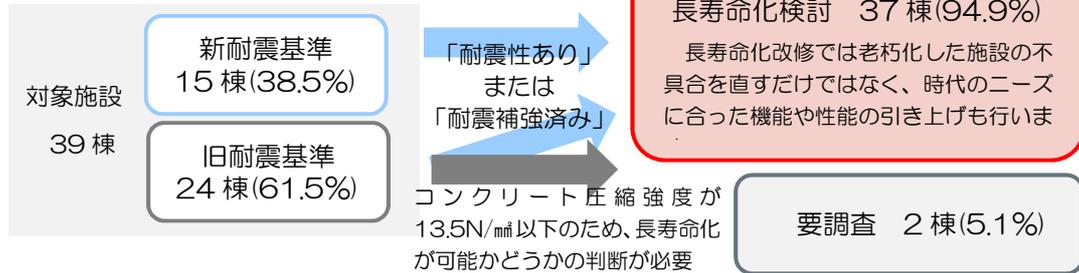
#### 学校施設の保有状況



		築50年以上	築40～49年	築30～39年	築20～29年	築10～19年	築10年未満	合計	
延床面積 (㎡)	小学校	校舎	5,875	17,943	1,203	0	2,523	0	27,544
		屋内運動場	705	3,592	2,495	0	947	0	7,739
	中学校	校舎	9,391	4,227	4,012	1,125	0	0	18,755
		屋内運動場	0	0	534	1,589	3,963	2,414	8,500
合計		15,971 (25.5%)	25,762 (41.2%)	8,244 (13.2%)	2,714 (4.3%)	7,433 (11.9%)	2,414 (3.9%)	62,538	
棟数(棟)		8 (20.5%)	16 (41.0%)	7 (17.9%)	3 (7.7%)	4 (10.3%)	1 (2.6%)	39	

## 整備対象学校施設の老朽化状況の実態

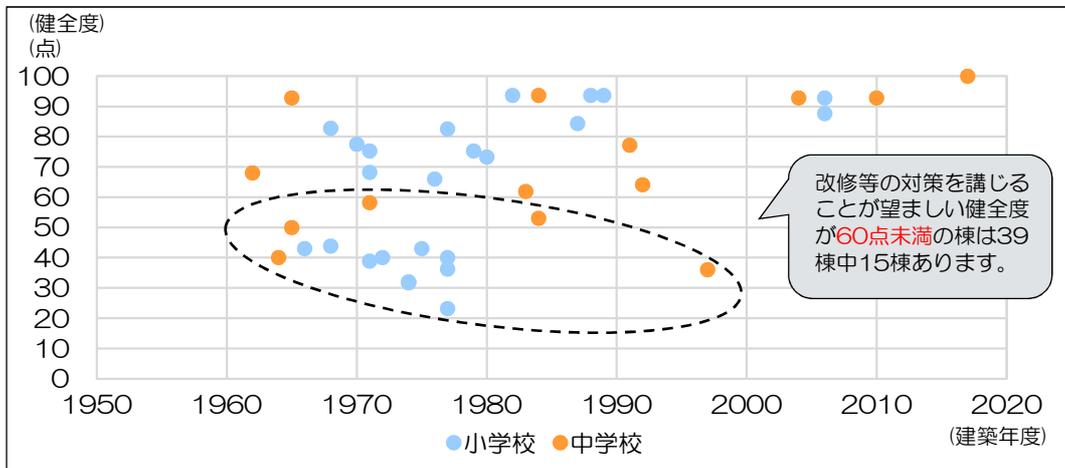
### ○構造躯体の健全性の評価



### ○構造躯体以外の健全性の評価

判定	目視による評価				経過年数による評価					
	屋根・屋上		外壁		内部仕上		電気設備		機械設備	
	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合
A	20	51.3%	11	28.2%	13	33.3%	6	15.4%	6	15.4%
B	12	30.8%	16	41.0%	11	28.2%	10	25.6%	10	25.6%
C	5	12.8%	9	23.1%	9	23.1%	23	59.0%	22	56.4%
D	2	5.1%	3	7.7%	6	15.4%	0	0.0%	1	2.6%
合計	39	100.0%	39	100.0%	39	100.0%	39	100.0%	39	100.0%

### ○建築年度別健全度評価



### ○劣化度調査等を踏まえた 学校施設の課題

- ・老朽化した屋根・屋上、外壁等の原状回復を図る改修等を実施している建物が少ないため、今後計画的な改修を実施する必要があります。
- ・天井に雨漏り痕や窓・ドア廻りで漏水が確認できる箇所が多数あり、鉄筋の腐食の要因となるため、早急に対策が必要です。
- ・ライフラインの更新が未実施となっており、経年劣化が進行していることが予想されるため、優先順位をつけて更新していく必要があります。

## 第4章 学校施設整備の基本的な計画の方針

### 学校施設の規模・配置計画等の方針

施設の規模や配置に関しては、総合管理計画の基本方針に基づき、保護者や地域住民と共通理解を図りながら見直していきます。  
(以下、阿波市公共施設等総合管理計画(令和3年改訂版)より)

1. 既存施設を最大限に有効活用する。
2. 新規施設の建設は必要最小限にする。
3. 施設延床面積の縮減を進める。

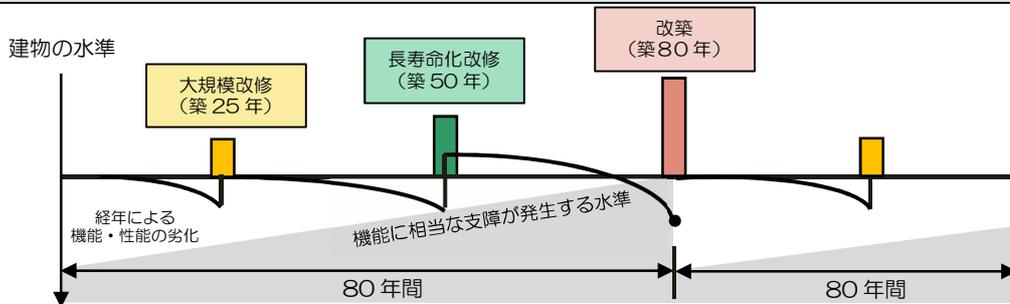


### 長寿命化の方針

施設の部位ごとに老朽化・劣化箇所を把握し、適切な時期に改修等を実施する予防的な保全を実施する必要があります。安全安心な施設利用を提供することができるとともに、施設全体に係るライフサイクルコストの縮減効果が期待できます。

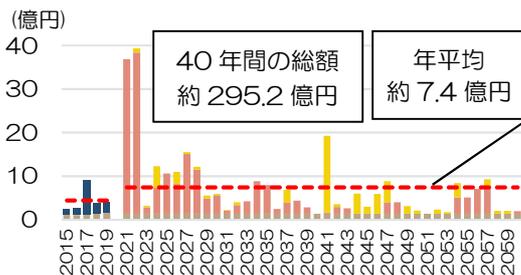
目標使用年数の設定	構造	RC造・SRC造	S造	W造
	目標使用年数	80年		50年

### 改修周期の設定

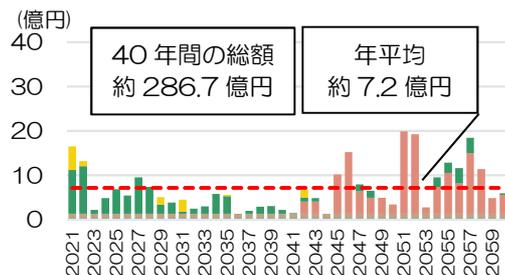


維持・更新手法		40年間の総額	年間費
従来型		295.2億円	7.4億円/年
長寿命化型	25年周期	286.7億円	7.2億円/年

### 従来型コストシミュレーション



### 長寿命化型コストシミュレーション



## 第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 改修等の整備水準

改修等の実施に当たっては、単に数十年前の建築時の状態に戻すのではなく、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供などその時代の社会的要請に応じるための改修となるように実施します。

全小中学校が、避難所に指定されていることから、改修等に当たっては、災害時の利用に支障をきたさないように、ユニバーサルデザインや空調及び衛生設備等の充実を目指すこととします。

### 維持管理の項目・手法等

本計画は、現在の学校施設の老朽化状況の実態を把握した上で策定しました。今後は、その計画に基づいて学校施設を維持管理・更新していきます。

しかし、施設は、日々劣化が進み、その劣化の発見が遅れることにより重大な事故・故障につながる可能性があります。

従って、早期にその不具合を発見し、改善していくために、施設管理者は、日頃から施設の状態に注意を払い、劣化の損傷度合いによっては、専門技術者の視点による調査を実施することにより施設の状態を把握します。

## 第6章 長寿命化の実施計画

### 改修等の優先順位付けと実施計画

劣化度調査及び築年数、改修履歴等より、今後5カ年の実施計画を以下に示します。

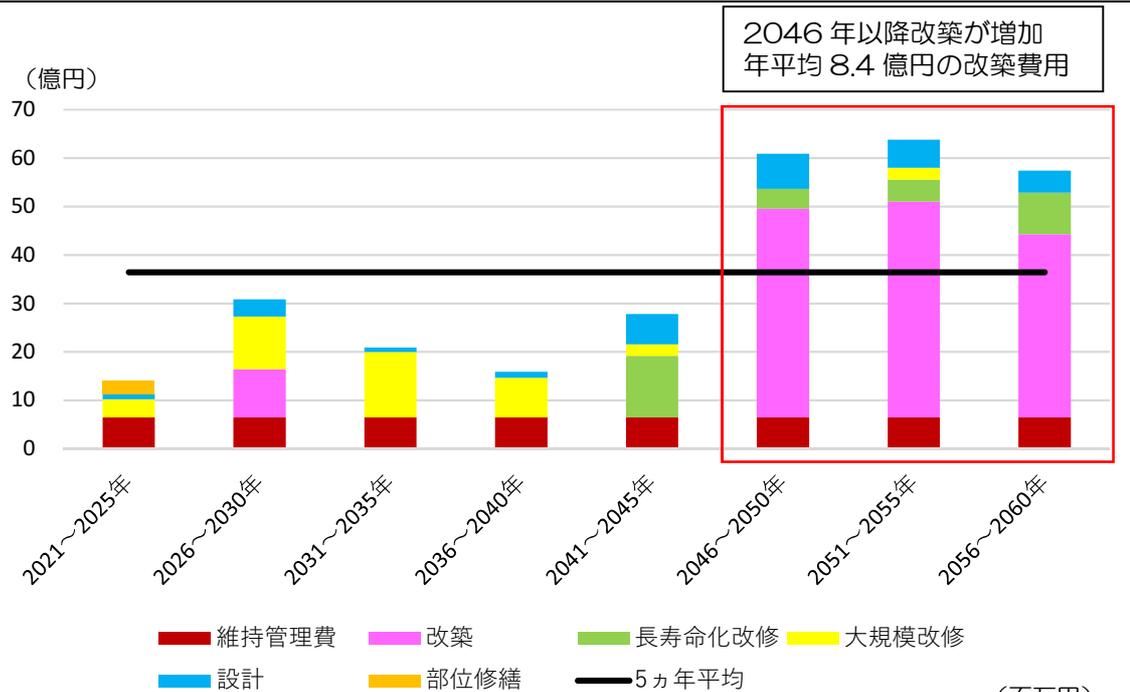
事業名	部位修繕	設計	大規模改修
2021年度	阿波中学校 (武道場)		土成小学校 (普通教室棟、 管理特別棟)
2022年度		吉野中学校 (屋内運動場)	
2023年度			吉野中学校 (屋内運動場)
2024年度	市場小学校 (管理特別教室棟)		
2025年度	林小学校 (管理特別教室棟)	阿波中学校 (管理、教室棟・ 特別教室棟、 屋内運動場)	

### 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

40年間の事業費は、約291.5億円で年平均約7.3億円となります。その中で、前半20年は、年平均約4.1億円の費用となっていますが、後半の20年間は、改築事業が増え、年平均約10.5億円（内、改築費約8.4億円）の事業費が必要となります。

このことを想定して、今後の維持管理コストを縮減するために、学校施設の配置・規模の検討だけでなく、市全体の公共施設マネジメントを検討していく必要があります。

### 今後40年間の維持管理コスト



	改築	長寿命化改修	大規模改修	設計	部位修繕	維持管理費	平均	合計
2021～2025年	0	0	375	109	277	647	3,644	1,407
2026～2030年	993	0	1,084	359	0	647		3,082
2031～2035年	0	0	1,351	91	0	647		2,089
2036～2040年	0	0	813	126	0	647		1,585
2041～2045年	0	1,267	239	627	0	647		2,781
2046～2050年	4,307	406	0	728	0	647		6,087
2051～2055年	4,450	454	248	580	0	647		6,379
2056～2060年	3,780	852	0	460	0	647		5,739
合計	13,531	2,979	4,110	3,079	277	5,175	29,150	29,150

## 第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 情報基盤の整備と活用

計画を推進する上では、学校施設における情報の蓄積が重要となります。  
 学校施設を適切に管理していくため、「公共施設マネジメントシステム」を活用し、過去の改修・修繕履歴や各施設の状態などを情報として蓄積し、適宜更新をします。それにより、予防保全型コスト算定や継続的な施設管理に活用できるよう、最新情報を管理します。

### 推進体制等の整備

学校施設は、地域の活性化や地域コミュニティの拠点として重要な施設であるため、施設を適切に管理するためには、全庁的に取り組む必要があり、部局の垣根を越えた横断的なマネジメントが必要となります。そのためには、「公共施設マネジメントシステム」などを活用し、全庁的な取り組みを行います。

また、学校施設の維持管理については、学校施設カルテ等を活用し、学校職員による日常点検や保守点検業務委託による各種点検報告書より、不具合箇所の早期発見と修繕対応を図っていきます。

### フォローアップ

本計画で対象とする学校施設は、施設の長寿命化を基本としますが、将来の学校教育を取り巻く環境の変化や児童生徒数の変動、本市の財政状況等によって随時対応する必要があります。上位計画である総合管理計画や個別管理計画との整合を図りつつ、学校施設整備を進めていくためには、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルを確立し、適切な進行管理を行います。

### 長寿命化計画の見直しサイクル

また、本計画は、5年を単位に見直すことを基本とし、市の財政状況や制度変更等にあわせて適宜見直しをおこない、上位計画である総合管理計画や財政見通し等への反映を行うこととします。

